

竹早だより

平成26年度3月号
平成27年3月6日
東京都立竹早高等学校
文京区小石川4-2-1
電話03(3811)6961

卒業式を迎えるに当たって

校長 高田 純一

校塔に鳩多き日や卒業す 中村草田男

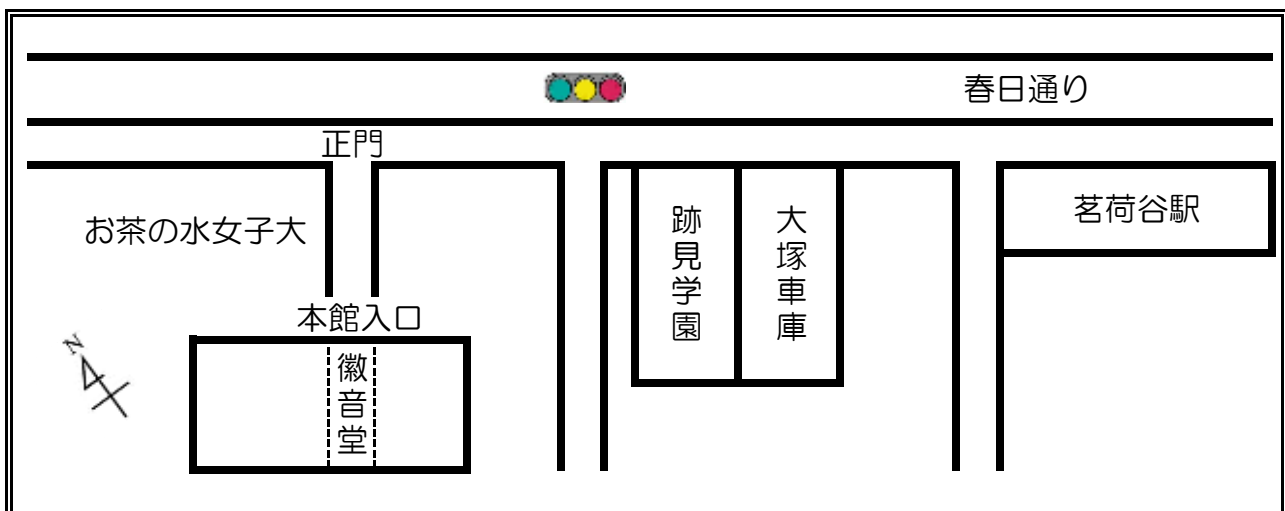
卒業と言えばこの句というくらい有名な句です。ふと見上げた校舎の塔に鳩が群れ集まっているという描写ですが、いつもは少ない鳩が今日だけ多くいるということではないでしょう。普段は注意して見ることもない校塔に思わず目が行ってしまったのです。そんなところに卒業の日の特別な感慨が込められているのだと思います。

さて、その卒業式がいよいよ明日に迫りました。3年生の皆さんの胸にはどんな思いがよぎっているのでしょうか。皆さんとは1年間だけ一緒に過ごさせていただきましたが、本当に一人一人立派に成長したなと実感しております。進路先は分かれてしまいますが、竹早高校の卒業生としての誇りを胸に、新たな環境で活躍してほしいと願っています。また、ここまで育ててくださった保護者の方々に感謝の念をもつとともに、是非それを言葉で表現してほしいと思います。

在校生の皆さん。皆さんは、卒業式のもう一方の主役です。厳粛な式になるよう協力してください。そして、記憶に残る卒業式を皆で作ってあげていきましょう。

さて、今年の卒業式会場は、お茶の水女子大学の講堂「徽音堂（きいんどう）」です。今回、お茶の水女子大学のご厚意により特別にお借りすることができました。徽音堂は国の有形文化財に登録されている貴重な建築物です。床を傷つけたりしないよう細心の注意をお願いします。また、午後には別の行事が予定されているため、卒業式終了後の退場を速やかにお願いします。記念撮影等は竹早高校に戻ってからにしてください。

また、お茶の水女子大に向かう際、誤って跡見学園に入らないよう注意してください。正門あたりの佇（たたず）まいがやや似ており、うっかり間違えてしまいそうです。茗荷谷から向かう場合、大塚車庫の隣は跡見学園です。そこからさらに信号を一つ越えたところが、お茶の水女子大の正門になります。下図を参考によりしくお願いします。



「学校だより」の研究

今年度の「竹早だより」はこれが最終号になります。1年間お読みいただきありがとうございました。

年度末ということで「学校だより」そのものの分析とまとめを行います。

実は同じように「学校だより」と言っても校種や学校により、性格がかなり異なります。

右図は、書き手と読み手の2つの要素により「学校だより」の性格を分析しようとしたものです。

まず、書き手ですが、校長一人で書く学校から、生徒の文章を多く掲載する学校まで多様です。本校には

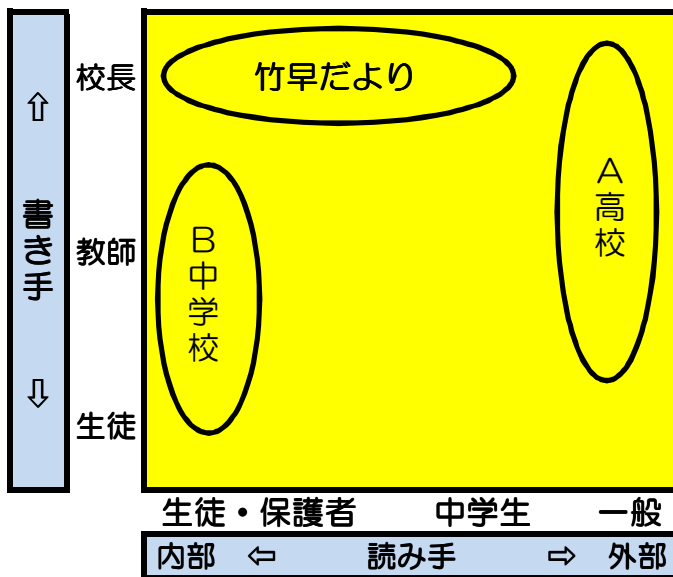
朝礼がなく、校長の話す機会が少ないため、せめて月1回は生徒に語りかけようという趣旨で、校長が書くスタイルをとっています。（「校長室だより」と呼ぶ学校もある）

次に読み手です。「竹早だより」の場合、基本的に生徒に語りかける形ですが、HPに掲載することもあり、外部に対する情報発信も兼ねています。なお、高校では対外的な情報発信のためだけに「学校だより」が作成される場合も多く見られます。

上記2つの要素の他「第3の要素」を考えるとすると、それは「発行頻度」でしょう。小学校の場合、毎月1日の日付で月1回発行される学校がほとんどです。保護者に詳細な行事予定を知らせて、この日は給食がないといった確認をする必要があるからです。中学校でも月1回発行ですが、日付は1日とは限りません。そして、高校では不定期の発行となる場合が多くなります。「竹早だより」は月1回にこだわっていることから、中学校的と言えるでしょう。下に「行事予定」欄を設けているのは、小・中学校的なるものへのノスタルジーかも知れません。（私は以前、中学校の校長をしていました……）

最後に1年間のまとめです。一貫して述べてきたのは、未来へ、世界へと視野を広げようということです。そして、高い目標に向かって勇気を出して進もうと訴えました。

「竹」のように強靱な精神力をもって、また一歩前に進もうではありませんか。



3月・4月の主な行事予定

〈3月〉

- 7 (土) 卒業式 (お茶の水女子大にて)
- 11 (水) 学年末考査 (1・2) 終
- 21 (土) **春分の日**
- 25 (水) 修了式
- 26 (木) 春季休業日始

〈4月〉

- 5 (日) 春季休業日終
- 6 (月) 始業式
- 7 (火) 入学式
- 28 (火) 校外学習
- 29 (水) **昭和の日**

